

「高知の授業の未来を創る」推進プロジェクト
「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業
第1回 教材研究会

【発行】
 令和元年6月
 高知市教育委員会
 学校教育課
 学力向上推進室

学びに熱中する子供の姿がここにある！
 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための実践研究事業では、教材分析力・授業分析力の向上を目指し、潮江東小学校（指定校）を会場に教材研究会・授業研究会を実施しています。今回は、第1回【教材研究会】（6月7日実施）での学びの様子と単元全体の様子を最終板書を通して紹介します。

今後の予定と申込みについて
 今後の日程及び申込みについては、HPをご参照ください。
 他のレポートも多数掲載！



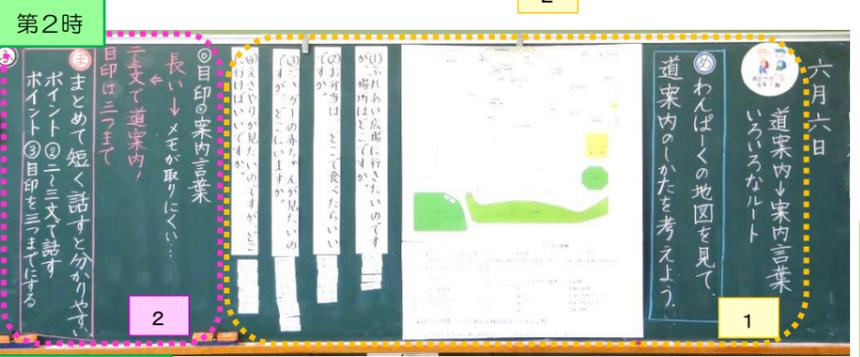
第4学年 単元名「わたしたち遠足サポーター」
 教材名「案内係になろう」（東京書籍4年上）
 授業者 高木 美紗 教諭（高知市立潮江東小学校）

提案の主旨
 「見方・考え方」を働かせて学びを深める国語科単元づくり（授業づくり）のあり方
【本単元で付けたい力】 質問の目的を考え、必要な事柄を分かりやすい言葉で丁寧に話す力
【設定した言語活動】 遠足サポーターとして、わんぱーくこうちに関する問い合わせに答える活動

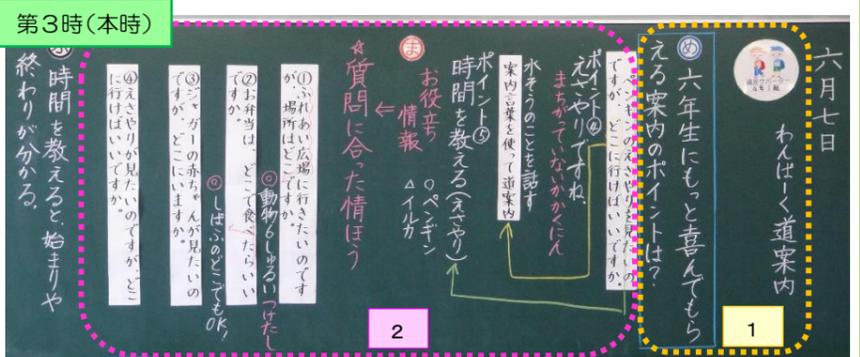
- 第1時**
- 初めは簡単だと思っていた「わんぱーくこうち」の紹介が、いざやってみると難しいことを実感。《話す》
 - どうしたらよいか考える。⇒「地図があったらいい」「ヤドカリとイソギンチャク」のときのようにまとめて説明したらいい。
 - 教科書教材で「ペンギンの餌やりを見たいのですが、どこに行けばいいですか」という問いの答えを考え、隣同士で案内しあう。《話す》
 - 友だちの道案内を聞いて『案内する言葉』とその働きに着目する。（ポイント①）
⇒案内言葉を使って道案内すると分かりやすくなることを実感する。【見方・考え方】



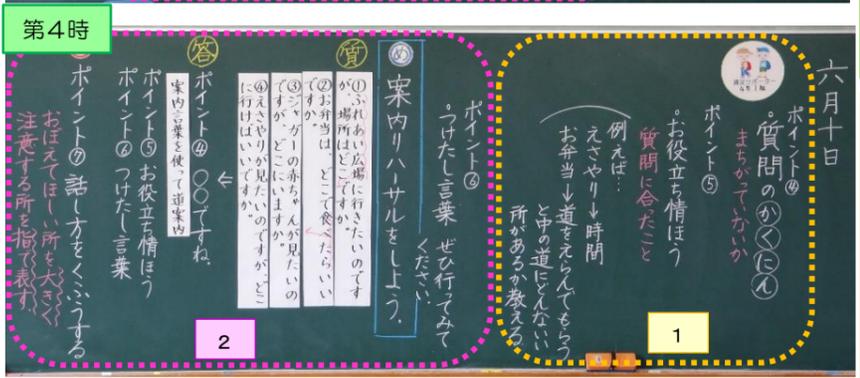
- 第2時**
- 前時に見つけたたくさんの『案内言葉』（ポイント①）を使って、わんぱーくこうちの道案内に挑戦する。《話す》
⇒一文が長すぎて分からない。・詳しくて全部を聞き取れない。
 - 友だちの道案内を聞いて『案内が長いとメモが取りにくい』（ポイント②）『目印をたくさん言われても全部は聞き取れない』（ポイント③）ことに着目する。
⇒目印を絞り、2〜3文で道案内をすると分かりやすくなることを実感する。【見方・考え方】
⇒案内文を修正して案内しあう。《話す》



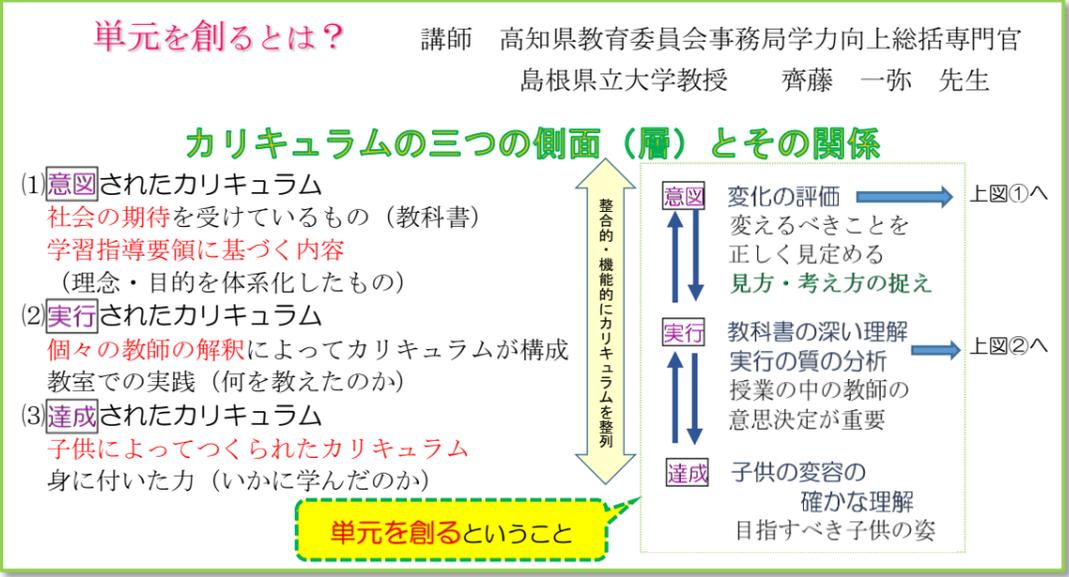
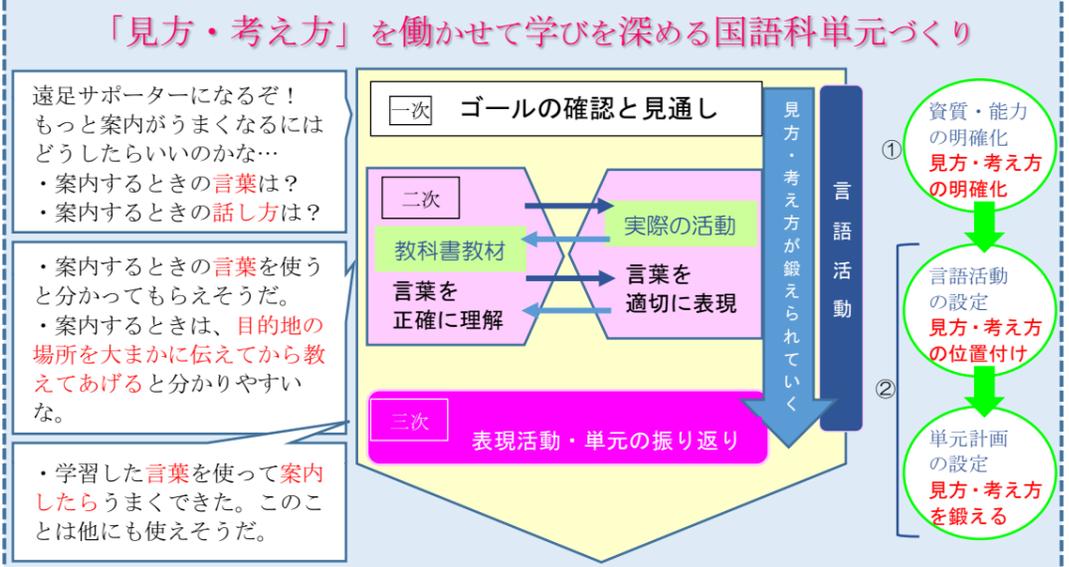
- 第3時（本時）**
- 「6年生にもっと喜んでもらえる案内のポイント」がないか、デジタル教材のモデル文から見出す。
 - 『問い合わせの確認』（ポイント④）『お役立ち情報を加えている』（ポイント⑤）ことに着目する。
⇒問い合わせとお役立ち情報を関連付けながら捉えることで、どのようなお役立ち情報が相手の目的に沿っているのかを考え、友だちと相談する。【見方・考え方】
⇒ポイントを入れて話す練習をする。《話す》



- 第4時**
- 前時に見つけたポイント④とポイント⑤を加えて、わんぱーくこうちの道案内に挑戦する。《話す》
 - 友だちの案内を聞いて、『付けたい言葉』（ポイント⑥）『話し方の工夫』（ポイント⑦）に着目する。
⇒相手の興味・関心を引く言葉や話し方を取り入れることで、より話したいことが伝わることを実感する。【見方・考え方】
⇒第5時のビデオ撮影に向けて、案内リハーサルをする。《話す》



- 第5時**
- 6年生の問い合わせに答えるビデオ撮影を行う。《話す》
 - 分かりやすい話し方のポイントを話し合いながら「学習貯金」を作る。



【参会者の感想】

- 「単元を創る⇒カリマネ」であって学習指導要領・教師・子供の変容の実感とそれぞれの視点から、その三つに整合性をもたせ、機能的に行えるようにしていかなければならないことが分かった。学びの質を高めるために、聞くことによって話すよさを実感させる、話しながら聞きながら付けたい力に迫っていく学びが必要であるという話があった。文章に返るだけでなく、話している内容に返って子供の学びを深めることを意識したい。
- 先生と子供とのやり取りの中で思考を深めていくことを学んだ。今後、授業の中で「どうということ？」「何で？」と子供にもっと投げかけて、理由や考えをしっかりと語ることができる子供に育てたい。また、単元のゴールだけでなく毎時間少しずつ言語活動を取り入れた授業を考えていく。